参考となる成果整理表

肥効調節型肥料を用いた秋冬ネギの基肥一発栽培は追肥不要で収量・品質の確保が可能

福島県農業総合センター　浜地域研究所

1　部門名

野菜―ネギ―施肥法

2　担当者名

古川鞠子

3　要旨

秋冬ネギは収穫までに追肥を複数回行うが、手散布による作業の負担や天候によっては適期作業ができない等の課題がある。肥効調節型肥料を用いた追肥不要な省力的施肥方法を検討した結果、施肥に要する時間を削減でき、慣行栽培と同等の収量・品質を確保できた。

（1）基肥一発栽培は肥効調節型肥料(成分比 N:P_2O_5:K_2O＝26(リニア型 30 日タイプ:シグモイド型 80 日タイプ＝3:20):10:10)を溝施肥し、単肥(P_2O_5、K_2O)は溝切前に全面施用した。慣行栽培は混合堆肥複合肥料を定植前に全面散布し、定植後に即効性の窒素肥料を溝施肥した。慣行栽培の追肥は化成肥料や単肥で計 5 回、株元に散布した。

（2）基肥の施用時間に大きな差は無く、追肥を省略できることで基肥一発栽培は施肥に要した時間が慣行栽培に対して約 8 割削減された（表 1)。

（3）生育に差は見られず、収穫調製後の品質、収量も慣行栽培と同等であった(表 2)。

（4）秋冬ネギ用の肥効調節型肥料は令和 9 年以降にメーカーにより製品化される予定である。

表 1　施肥に要した時間　(令和 7 年)

施肥法	施用時間(h/10a)			
	基肥	追肥	合計	削減率(%)
基肥一発	4.4	0	4.4	79.6
慣行	4.0	17.4	21.4	―

※品種は「ホワイトソード」。令和 7 年 4 月 8 日播種、6 月 6 日定植。慣行区の追肥は定植後 1 か月置きに計 5 回。
※いずれの施肥法も最終的な投入量は N:P_2O_5:K_2O＝26:19:14(kg/10a)
※基肥一発肥料は所内で単肥を所定の割合で配合し、散布した。
※いずれも手散布。各区 3 反復の平均時間を 10a 当たりに算出。
※削減率は慣行の施用時間に対しての削減割合（%）

表 2　ネギの品質・収量　(令和 7 年)

施肥法	軟白長(cm)	茎径(mm)	収量(kg/10a)
基肥一発	29.3 ±1.9	21.9 ±0.4	4,398
慣行	30.4 ±0.9	22.0 ±0.5	4,325

※令和 7 年 12 月 29 日に収穫し、生葉 3 枚残して外葉を剥き、全体の長さ 60 ㎝に調製して測定。軟白長、茎径は各区 5 株の平均±標準偏差。
※収量は、条間1m、チェーンポット(CP303)に 2 粒播種(栽植密度 24,000 株/10a)した場合。

4　成果を得た課題名

（1）研究期間　令和 6～7 年度

（2）研究課題名　安全で効率的な新農薬・新資材の実用化〔新農薬等に関する試験研究事業〕

5　主な参考文献・資料

（1）吉尾卓宏，秋冬ねぎにおける混合堆肥複合肥料を利用した施肥法，グリーンレポート No.679　P.8-9